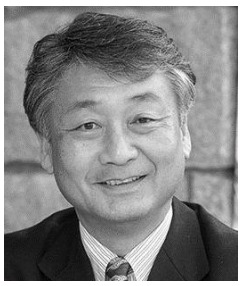
| 科目名 | | | 担当教員 | |
|---|---|---|---|---|
| 知的障害がある人とのソーシャルワーク | | | 三浦　剛 | |
| 科目コード | 単位数 | スクーリング単位 | 履修方法 | 配当年次 |
| DD3242 | 1 | 1 | S（講義） | 2年以上 |
| 生成 AI 利用レベル | | 試験（スクーリング含む）　：　C | | |



## 科目の概要

**■科目の内容**

【はじめに、このシラバスでは今日においては差別（不快）用語が使用されるが、それは当時の社会、人々のもつ知的障害への意味を明確にしようとするために、必要であると考えるからである】

知的障害の概念は、その時その時の社会の状況によって変化している。地元の身近な道化から、被扶助者、白痴者、収容者などである。ようやく 1960 年代に始まる人権擁護の思想の拡がりは、国際障害者年、そして障害者の権利条約へと続き、権利行使の主体としての存在を認められたといってよいだろう。

この授業では、社会が知的障害の概念を作り変化させ、また知的障害の問題が、社会問題として顕在化してくる過程を踏まえて、ソーシャルワークが、知的障害があるとされる人たちとどのようにかかわってきたか、これなかったのか、また、これからどうあるべきかについて考える。知的障害の概念の変化や社会問題として顕在化してくる過程とソーシャルワークのかかわりについて学んで欲しい。

**■到達目標**

- 「知的障害者」といわれる人たちが、社会の中で、これまでおかれてきた、そして現在おかれている状況を説明できる。
- 同時に、彼ら、彼女らへの「かかわり」の、これまでと現在を説明できる。
- これからの、彼ら、彼女らとのソーシャルワーク支援のあり方について、これまでの到達目標を踏まえ、自分の意見を述べることができる。

**■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連**

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

**■教科書・参考図書**

**【教科書】**

スクーリングにあたって教科書は使用しません。資料を配付します。

**【参考図書】**

- 中野敏子著『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009 年
- J.W トレント Jr.著、清水貞夫、茂木俊彦、中村満紀男監訳『「精神薄弱」の誕生と変貌（上・下）』学苑社、1997 年

■スクーリング講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | はじめに　私と知的障害 | 授業のオリエンテーションおよび担当者がこのテーマに取り組む経緯と、これまでおこなった研究と実践について紹介する。 |
| 2 | 「知的障害」の概念の変遷① | 知的障害が社会との関連において取り上げられる最初、救貧制度までと、救貧制度下の知的障害者への視線について講義する。 |
| 3 | 「知的障害」の概念の変遷② | 被扶助者という位置、また「白痴教育」の進展と生産人としての可能性の追求、しかしまた「恒久保護」のはじまりともなったことについて、社会がどのように彼ら彼女らを視てきたか講義する。 |
| 4 | 社会問題としての認知と対応① | 知的障害がある人を「脅威」として社会的に認知する過程と、その結果、隔離や断種がおこなわれたこと、優生思想について講義する。 |
| 5 | 社会問題としての認知と対応② | そのような状況下でのノーマライゼーションにつながる理念の萌芽と権利宣言、国際障害者年への過程。差別禁止、権利擁護の始まりについて講義する。 |
| 6 | ソーシャルワークとのかかわり | 救貧制度から、人道主義的諸活動としてソーシャルワークが生まれ、今日の権利擁護、ソーシャルインクルージョンへと展開する過程で、知的障害がある人とどう関わったのか、どのような視線が向けられたのかについて、講義、検討する。 |
| 7 | これからの「知的障害がある人とソーシャルワーク」 | ミクロレベルで彼らの「意志」をどうとらえるか、メゾ、マクロレベルでソーシャルインクルージョンをどう実現することができるだろうか、知的障害がある人とのかかわりに、ソーシャルワークの本質があることについて講義する。 |
| 8 | まとめ | |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングのみ開講します。

■講義の進め方

- パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。
- どこかに正解が書いてあることを説明する授業ではありません。みなさんと一緒に考える授業です。
- 自分の考えを説明できるように、授業内容を把握するに止まらず、しっかり考えてください。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験 100%

とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

- 「知的障害」とはなにか、自分なりの「定義」を作ってから、スクーリングに臨んでください。
- また、障害者福祉論や社会福祉援助技術総論などで学習した、ソーシャルワークや障害者支援の歴史的展開について確認しておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

スクーリング時のノートを整理して、担当教員が強調していたことを確認してください。